

令和元年度 第1回 米子市図書館協議会・会議録（概要）

○日 時 令和元年5月30日（木曜日） 午後2時から午後3時40分

○場 所 米子市立図書館 研修室3・4（2階）

○出席者 委 員

渡邊 眞子、辻田 賢次、河上 裕、福田 知浩、卜蔵 久子、西村 頼枝

山本 明子、宇田川恵理、高橋 素子、野川貴代子

事務局

（米子市立図書館）菅原館長、（一財）米子市文化財団 佐藤図書課長

（米子市教育委員会）木下生涯学習課長、安田課長補佐、上原係長

○欠席者 なし

○傍聴者 4名

○報道関係 なし

【協議会の概要】

○開 会

事務局より開会

○会長挨拶

— 渡邊会長からあいさつ

事務局

— 協議会委員紹介・事務局及び図書館紹介

渡邊会長

では、1番目の「平成30年度事業報告及び決算について」を事務局の方から説明をお願いします。

菅原館長

「平成30年度事業報告及び決算について」、資料1と資料2を使って説明させていただきます。

資料1は、「平成30年度の実施事業等」ですが、実施した事業について、「各種例会・おはなし会」「ビジネス支援」「こどもの読書関係」「一般」の4つに分類しております。

結果は、ご覧のとおりですが、それら4つに分類したものを集計しますと、実施回数は274回、参加人数は10,447人で、平成29年度と比べ、実施回数が2回減ったものの、参加人数は916人の増となっております。

増加の主な要因ですが、各種例会・おはなし会の参加者が105人減ったものの、ビジネス支援、こどもの読書関係が、ほぼ横ばいだった中で、一般の部として、米子市文化財団フェスティバルへの参加者が915人増加したことによるものでございます。

なお、このフェスティバルは、湊山球場で行われ、図書館からは移動図書館車が参加しておりますので、それを除くと参加人員の総合計は8,451人となり、平成29年度の8,450人と比べ、ほぼ横ばいという状況でした。

また、視察・見学については、平成30年度は28団体576人の実績がありました。前年度と比べ受入団体は5団体増加しましたが、受入人数は113人減少しています。

これは、平成29年度には、みどり幼稚園から100人の見学を受け入れたことが影響しております。

また、今回から、新たに館内のギャラリーを利用して、当館主催や共催事業として特別展示したものを記載しております。

続きまして、資料2「平成30年度図書館費決算明細書」をご覧ください。

図書館費は、図書館を運営するための経費ですが、これを業務目的別に分類すると、事務員の人件費や消耗品などの「事務経費」が4.4%、図書館施設そのものを維持管理する「施設維持費」が10%、図書館サービスを実施する「図書館運営費」が61.8%、そして雑誌や図書を購入する「図書購入費」が23.8%を占め、それら4つで構成しております。

平成30年度の図書館費の決算額は、118,422千円で、予算額と比較しますと、1,489千円の不用額が生じております。その不用額の内訳ですが、米子市文化財団委託料の実績減と図書館システム更新に伴うリース料の入札残によるものでございます。

次に、資料2の参考資料をご覧ください。米子市文化財団業務委託料の内訳を掲載しております。

米子市文化財団委託料の決算額は62,185千円で、予算に比して864千円の不用額が生じております。これは、図書館運営に携わっている文化財団の職員は16人ですが、そのうち平成30年度中に中途退職した職員が1名、出産・育児のために休業した職員が2名あり、それら欠員を補充するための代替職員の補充が遅れたことによる人件費の不用額が主な要因でございます。

渡邊会長

みなさん質問がありましたらよろしく申し上げます。

ト藏委員

米子市文化財団の決算の中で、事務局経費というのがありますが、これはどういう性格のものでしょうか。

菅原館長

米子市文化財団の事務局に係る経費を、図書館や美術館、児童文化センターなどの施設ごとに負担するために計上しているものでございます。

文化財団としては、施設ごとに事務局職員が関わっておりますので、事業別予算としての経理をされているものと思います。

ト藏委員

各施設ごとに事務局経費が計上されていることは、事務局の経費を各施設ごとに負担していることですか。

菅原館長

各施設がどのような負担割合となっているかは、分かりませんが、事業別予算として各施設が負担している形です。

ト藏委員

他の施設でも、事務局経費が計上されていますが、どのような計算がとられているのか分からない。

菅原館長

各施設への事務局経費の具体的な負担割合については、文化財団のほうに聞いておきたいと思えます。

高橋委員

図書館費の決算明細書で当初予算ではなく、最終予算と記してありますが、これはどういう意味でしょうか。

菅原館長

今回から決算明細書の表示の仕方を変えたのですが、従来ですと、当初予算、補正予算、最終予算と時系列的に標記しておりましたが、今回から最終予算と決算額の比較を表しました。そして、最終予算というのは、当初予算に補正予算を加えたものとして表記しております。

高橋委員

具体的に補正予算を組んだのでしょうか。

菅原館長

具体的には、ブロック塀の撤去経費と図書購入費の補正予算を編成しております。

なお、文化財団委託料については、補正予算はありませんでした。

西村委員

やはり、文化財団委託料は、わかりにくい部分であります。資料2の参考資料として文化財団の決算が表示されていますが、それは、資料2の図書館費の決算明細書のうち、文化財団委託料の内容なのですね。

卜藏委員

受託している米子市文化財団から、直接説明を聞くというのも一つの方法だと思います。

渡邊会長

図書館の運営形態は、色々あると思いますが、米子市立図書館は市民ための大切な財産であるという認識の下に運営していただきたいと思います。

それでは、2番目の議題「令和元年度事業計画及び予算について」を事務局から説明をお願いします。

菅原館長

「令和元年度事業計画及び予算について」、資料3から資料5を使って説明をさせていただきます。まず、資料3をご覧ください。「令和元年度の図書館事業計画」でございますが、本市図書館の運営方針は、記載のとおり、7本の柱に基づき進めてまいります。そして、それぞれがバランスよく事業展開できるよう、努めてまいります。

なお、この事業計画の内容は平成30年11月の図書館協議会開催時に報告をしたものに、日程が決定したもの等を掲載しております。

新規事業としては、図書館システムの更新に伴ったホームページをリニューアルすることと、地元書店と連携した図書購入について、地元書店からの図書購入割合を増やしていくこととしております。

また、昨年の11月の協議会において、連続講座の実施という意見も出ましたので、今年度事業に掲載しておりますほか、県立図書館との連携事業についても実施することとしております。

続きまして資料4の「令和元年度図書館費予算明細書」をご覧ください。

令和元年度の図書費予算額は134,680千円で、昨年度と比べ13.4%増15,969千円の増となりました。

これは、本年3月から図書館システムを更新したことに伴う、新規システムのリース料が平準化して10,885千円増加したことと、文化財団委託料7,913千円の増加については、地元書店から図書を購入することへシフトすることにより、業務増に対応して職員を1名増員することによるものでございます。

これにより、図書館業務に従事する文化財団の職員は、正職6人、嘱託7人、臨職4人の17人となります。

次に資料5の「図書資料費の推移」をご覧ください。

平成25年度の図書館リニューアル時の図書資料費 31,500 千円と比較すると、平成26年度が82.1%、平成27年度から平成29年度が85.6%、平成30年度が86.4%、令和元年度が88.8%と徐々にではありますが、増加しているところです。

渡邊会長

みなさん質問がありましたらよろしくをお願いします。

高橋委員

文化財団委託料のうち、人件費が5,797千円増えていますが、これは業務増にかかる1名分ですか。

菅原館長

人件費の増分は、業務増に対応した1名分と、2人の出産休暇中の代替職員の賃金やベースアップ分を含んだものでございます。

高橋委員

今年度の予算に上がっている人件費は、17名分ということですね。

渡邊会長

それでは、次に3番目の議題「図書館システムの更新について」を事務局の方から説明をお願いします。

菅原館長

資料6の「図書館システムの更新について」をご覧ください。

従来の図書館システムのリース期間が、昨年9月末で満了になったことに伴い、利用者の利便性の向上と利用者層の拡大を図るため、本年3月1日から新たな図書館システムを稼働させたところでございます。

システム更新までの経過ですが、業者を選定後、昨年10月から作業を開始し、プログラム開発やデータ修正、機器環境の整備を行ってまいりました。

そして、更新に向けた最終的な作業のため、本年2月25日から28日までの4日間を臨時休館し、データ移行、機器の入れ替え、機器の操作確認のほか、最終的なシステムの稼働確認を行い、本年3月1日から新たなシステムを本格稼働させたところでございます。

主な変更点ですが、パソコン類を全て新機種に入れ替えますとともに、自動貸出機を1台増設し4台に、蔵書検索機も1台増設し5台に、併せてレシートプリンタを設置し、検索結果をレシートで作成することを可能としました。

そのほか、国会図書館などのデータベースの閲覧専用のパソコンを1台新設するとともに、Myライブラリ機能として、貸出履歴を自分自身で確認することができる機能を追加しました。

さらに、ホームページのデザインを変更するとともに、スマートフォン・タブレット専用の画面を導入しました。

また、内部事務的なものになりますが、図書館システムに係るサーバーは従来、図書館内に設置しておりましたが、それをシステム業者のデータセンターへ移設し、電気代や機器のメンテナンスのコスト削減につなげるとともに、稼働状況の監視、セキュリティ対策など、安定的な稼働が可能となりました。

渡邊会長

みなさん質問がありましたらよろしくをお願いします。

宇田川委員

今回のシステムはケイズのシステムですか。

佐藤図書課長

富士通のシステムをカスタマイズしたものでございます。

高橋委員

システムのことではないのですが、図書館においても独自に講演会をされますが、その予算が240千円しかないのは、如何かと思えますが。

菅原館長

昨年の協議会でもご指摘をいただきましたが、なかなか単独で実施することは難しいのですが、県立図書館との連携や高専との連携等での講演会を実施することとしております。

渡邊会長

やはり、他館の状況も参考にしながら、アンケート結果でもありましたが、市民の声を吸い上げるような予算の確保をお願いしたいと思います。

それでは、次に4番目の議題「米子市立図書館の現状について」の説明をお願いします。

菅原館長

米子市立図書館の現状について、資料7から資料12参考「米子市立図書館の現状のポイント」に沿って説明いたします。

まず、データからみたポイントとして、資料7に掲げます蔵書冊数でございますが、ここ数年対前年度比3%台で推移しており、平成30年度末では321,349冊となっております。蔵書冊数は概ね毎年10,000冊程度増加している中で、開架冊数は144千冊前後でほぼ横ばい状態で推移しています。これは、開架スペース制約はありますが、蔵書冊数は毎年増えている一方で、開架冊数に変動がないことは、増加した図書のほとんどが新刊本として開架されていることとなります。

次に、貸出冊数についてですが、資料7のとおり、2年連続で2%台の伸びとなっており、平成30年度末で668,091冊となっております。その貸出冊数を分野別で見ると、児童が30.1%、文学が25.9%、工学が9.4%の順となっており、これら3分野で65.5%を占めております。

また、来館者数も2月に臨時休館したにもかかわらず、315,100人で前年度を4,700人上回っており、平成30年度の1日当たりの来館者数は1,106人となっております。

次に平成29年度における他市の図書館との比較ですが、資料10のとおり、人口1人当たりの本市の蔵書数は決して多いほうではありません。また、貸出冊数、図書購入費につきましても、ほぼ平均並みとなっております。

しかしながら、所有する図書が何回貸し出されたかをみると、本市は2.1回で県内、山陰12市、中国地方の類似都市と比べて、高いレベルとなっており、本市図書館が所蔵する図書が、フル回転で効率よく貸出・返却されていると考えられます。

また、本市図書館がリニューアル以降、蔵書数、貸出冊数等、色々な数値が順調に伸びている要因を分析する際、データ以外のポイントとして、レファレンスサービスや館内展示といった人的なサービスが、側面で支えているものと考えられます。

詳細については、佐藤図書課長が説明いたします。

佐藤図書課長

まず、資料11の「レファレンスサービスについて」、説明させていただきます。

レファレンスサービスとは、利用者から寄せられた質問に対して、司書が書籍やインターネットなどを利用して調査し回答するサービスで、図書館の貸出サービスと並んで、主要なサービスとな

っております。レファレンスサービスは1階と2階のカウンターで行っておりますし、そのほか、学校図書館からの質問にも対応しており、その実績は記載のとおりです。

平成30年度は3,829件で、ここ数年は3,900件前後で推移しています。

質問内容の主なものは、1階カウンターでは日常生活に関する質問やビジネスに関するもの、読書案内となっております。

また、2階カウンターでは、郷土資料や地域の事柄に関する質問が主なものとなっております。

レファレンスの流れですが、質問はカウンターで口頭で受け付けますが、電話・ファックスでも受け付けていますので、全国からも質問が寄せられます。

調査方法は、質問に対して当館の資料検索システムで、関連するキーワードで検索したり、鳥取県立図書館や国会図書館での資料検索システムを使って検索を行います。

具体的な例示として、資料11別紙に旧国鉄の米子教習所に関する質問と松江藩の参勤交代の行程に関する質問に対するレファレンスサービスを記載しております。

次に館内展示についてご説明させていただきます。資料12「館内展示について」をご覧ください。

図書館内において、図書館司書が自らの判断で、利用者に興味を持ってもらいたいテーマや要求の高いテーマごとに、毎月コーナー展示を行っております。

展示の内容ですが、季節に関するものや時事問題、美術館などとの連携事業に関するものなどを展示しています。

展示の場所ですが、次のページに写真を掲載しているとおりですが、一般展示のコーナーや児童書のコーナーに児童展示の場所を作っております。

最後のページには、平成30年度における展示コーナーの展示テーマを記載しておりますので、ご覧いただきたいと思っております。

年間の展示タイトル数は平成30年度が167タイトルで、前年度の1.5倍のタイトル数を展示いたしました。

渡邊会長

みなさん質問がありましたらよろしく願います。

高橋委員

蔵書数に関連して、他都市では合併の関係で分館を持っているところがありますが、米子市の場合、分館を作るといったことはないのでしょうか。

菅原館長

本市に分館をとという話は、将来的にも別の議論が必要となってくると思いますが、旧米子市と旧淀江町の合併の際、当時の淀江町にも小規模な図書館があったと記憶していますが、蔵書数がどのくらいが適正であるのかは、施設の収容能力の問題もあり、新たな議論が必要となります。

ト藏委員

旧淀江町の淀江公民館の中に図書室のようなものがありました。また、これからの図書館を考えるに、各地区の公民館の図書室を充実させる必要があると思います。公民館を有効に使っていくことが大切だと思います。また、淀江の人は日吉津の図書館を利用されている方が多いと聞いています。

高橋委員

移動図書館車があると思いますが、淀江のほうにも回っているのですか。

佐藤図書課長

移動図書館車は淀江地区も回っておりまして、貸出文庫を淀江地区内の公民館やなかよし学級にも貸し出ししております。

高橋委員

身近なところで読書に親しめる場所があるということは、非常に大切なことだと思います。

今の状況に満足せず、これからも素晴らしい図書館を目指して頑張っていただきたいと思います。

渡邊会長

以前、議会の中でも、分館の件について、議論された経緯がありますが、耐震の必要性から図書館のリニューアルの議論が先行されたという経緯もありました。

これからの図書館を議論する際には、運営体制を含めた様々な側面からの話し合いが必要ですし、教育委員会事務局からも色々な情報も提供していただきたいと思います。

議事については、以上となりますが、館長さんからアンケート調査について、お話してください。

菅原館長

例年、図書館まつりを挟んだ11月頃に利用者アンケートを行ってきましたが、前回の協議会でもご指摘があったように、調査期間の延長、設問の簡略化、精査等を行った上で、例年よりは早めに、期間も長く取って実施したいと考えております。

ト藏委員

読書まつりでの読み聞かせの題材、本の名前などをペーパーで紹介して欲しいです。参加したお母さん方にとって、図書館で借りて家で読めることになりますので、お願いしたいと思います。

渡邊会長

それでは、時間となりましたので、本日はこれで終わりますが、皆さんご協力をどうもありがとうございました。

以上